

# 問

## 主な質問と答弁

### 家族介護の負担軽減

#### 介護者の視点に立った支援を検討 情報交換や交流の場を提供する

竹村 雅夫

(かわせみクラブ)

**質問** 介護者が介護と仕事、介護と生活を両立できる支援策が求められている。要介護者の視点に立った取り組みだけでなく、介護を行う家族の視点に立った取り組みも必要と考えるが、市の見解を聞きたい。

**答弁** 高齢者や障がい者など要介護者がいる家庭では、介護する家族が抱える心身の負担は、介護疲れやストレスに起因するケースが多く、介護者の視点に立った支援は非常に重要である。市としては、介護者のリフレクシユを目的として家族介護者教室を開催するとともに、介護者同士の情報交換、交流の場として在宅介護者の会の運営支援を実施しているが、今後もパンフレット

等での介護の悩みを一人で抱えないよう呼びかけていきたい。さらに藤沢型地域包括ケアシステムの構築に当たっては、地域ささえあいセンターや地域の縁側といった集いの場が気軽に利用できる、介護者視点に立った居場所づくりを検討していく。

括支援センターなどと課題を共有、連携して取り組みを進めていくことが重要と考えている。

入里検査を実施し、その発生抑制を指導してきた。さらに、微小粒子の発生源であるばい煙発生施設設置事業場にも立ち入り検査を実施し、適切な燃焼管理によるばい煙の排出低減の指導を行うなど、PM2.5の環境基準達成に向けて取り組んできた。

国からは、健康影響リスクのより一層の低減に向け、PM2.5対策を含む幅広い大気環境保全対策に積極的に取り組む方針が示されており、本市においても、

団体等の関係者で構成する、犯罪のない安全・安心まちづくり対策会議を中心に、さまざまな団体と連携し、取り組みを進めている。今後は、個人でできる振り込め詐欺対策をわかりやすく記載した市独自のチラシを作成するなど、振り込め詐欺被害防止に向け取り組んでいきたい。

は、認知症の方が以前と変わらず地域の一員として、他の住民と同様に普通に日常生活を送ることができるよう社会をつくり上げることが重要である。そのために、地域住民に認知症を他人事ではなく我が事として捉えてもらい、地域全体で理解し合える仕組みづくりを進めていく。今後は認知症サポーター養成講座に加え、養成講座修了者を対象としたステップアップ講座の開催や、認知症地域支援推進員によるアウトリーチ型の

#### 超高齢社会への対応 ごみ出し負担を軽減

平川 和美

(藤沢市公明党)

**質問** 高齢者にとってごみ出しはかなりの負担となっている。今後、超高齢社会の進展において、廃棄物対策をどのように進めていくのか聞きたい。

**答弁** 超高齢社会が進展する中で、ごみの分別や排出等の負担は大きな課題であると捉えている。そのため、本市ではこれまでごみの取

り検査を実施し、その発生抑制を指導してきた。さらに、微小粒子の発生源であるばい煙発生施設設置事業場にも立ち入り検査を実施し、適切な燃焼管理によるばい煙の排出低減の指導を行うなど、PM2.5の環境基準達成に向けて取り組んできた。

国からは、健康影響リスクのより一層の低減に向け、PM2.5対策を含む幅広い大気環境保全対策に積極的に取り組む方針が示されており、本市においても、

団体等の関係者で構成する、犯罪のない安全・安心まちづくり対策会議を中心に、さまざまな団体と連携し、取り組みを進めている。今後は、個人でできる振り込め詐欺対策をわかりやすく記載した市独自のチラシを作成するなど、振り込め詐欺被害防止に向け取り組んでいきたい。

は、認知症の方が以前と変わらず地域の一員として、他の住民と同様に普通に日常生活を送ることができるよう社会をつくり上げることが重要である。そのために、地域住民に認知症を他人事ではなく我が事として捉えてもらい、地域全体で理解し合える仕組みづくりを進めていく。今後は認知症サポーター養成講座に加え、養成講座修了者を対象としたステップアップ講座の開催や、認知症地域支援推進員によるアウトリーチ型の

は、認知症の方が以前と変わらず地域の一員として、他の住民と同様に普通に日常生活を送ることができるよう社会をつくり上げることが重要である。そのために、地域住民に認知症を他人事ではなく我が事として捉えてもらい、地域全体で理解し合える仕組みづくりを進めていく。今後は認知症サポーター養成講座に加え、養成講座修了者を対象としたステップアップ講座の開催や、認知症地域支援推進員によるアウトリーチ型の

は、認知症の方が以前と変わらず地域の一員として、他の住民と同様に普通に日常生活を送ることができるよう社会をつくり上げることが重要である。そのために、地域住民に認知症を他人事ではなく我が事として捉えてもらい、地域全体で理解し合える仕組みづくりを進めていく。今後は認知症サポーター養成講座に加え、養成講座修了者を対象としたステップアップ講座の開催や、認知症地域支援推進員によるアウトリーチ型の



健康づくり等にポイント付与を検討=労働会館ふれあいまつり

#### インセンティブの付与 ポイント制度導入 年内開催のイベントで試行

桜井 直人

(自民クラブ藤沢)

**質問** 健康づくりにポイント制を導入し、インセンティブを付与し、健康増進につなげる取り組みをするべきと考える。本市でもポイント制度について、

来年度の導入を目的に設計を進めている。今後、年内に開催されるイベントでポイント付与を試行し、参加者へのアンケート結果などを参考に詳細な制度設計を

市を取り組みを聞きたい。健康ポイント制度についても、全体的なポイント制度の設計の中で、生活習慣の改善や重症化予防に関心はあるが、取り組んでいない方や、関心がない方にとっても、楽しみながら健康づくりを続けられる仕組みになるよう検討していく。

市として、地域の縁側事業や地区ボランティアセンター事業を協働で進めるなど、地域福祉の充実のために組織運営と活動の支援を行っており、来年度には地域づくりを支援するコミュニティソーシャルワーカーを配置できるよう協議を進めるなど、機能強化に取り組んでいる。コミュニティソーシャルワーカーは

地域力と住民力の向上に重要な役割を果たすと考えており、本市では十三地区の全ての地区に段階的に配置できるような支援をしていく。今後、地域包括ケアシステムの構築を進める中で、コミュニティソーシャルワーカーが地域住民と信頼関係を築きながら問題の解決に取り組むことができるよう、また市社会福祉協議会がその力を十分発揮できるように支援に力を入れていく。

フリー化に向けて、当事者でなく、介助者の負担軽減の意見聞きながら取り組む必要があるが、市の見解を聞きたい。

今後は当事者である障がい者団体からの意見と地元からの意見を聞きながら、課題を整理し、よりよい解決に向けた取り組みの検討を進めていきたい。

#### 地域の課題解決 市の支援を強化

東木 久代

(藤沢市公明党)

**質問** 地域での住民同士のつながりを再構築するため重要な市社会福祉協議会とコミュニティソーシャルワーカーの活用について、

市社会福祉協議会は、地域福祉の推進を担う中核的存在として活動しており、昨年四月には地域支援担当が強化され、多様な地域課題に迅速に対応できるよう、体制整備が進められた。市としても、地域の縁側事業や地区ボランティアセンター事業を協働で進めるなど、地域福祉の充実のために組織運営と活動の支援を行っており、来年度には地域づくりを支援するコミュニティソーシャルワーカーを配置できるよう協議を進めるなど、機能強化に取り組んでいる。コミュニティソーシャルワーカーは

フリー化に向けて、当事者でなく、介助者の負担軽減の意見聞きながら取り組む必要があるが、市の見解を聞きたい。

今後は当事者である障がい者団体からの意見と地元からの意見を聞きながら、課題を整理し、よりよい解決に向けた取り組みの検討を進めていきたい。

今後は当事者である障がい者団体からの意見と地元からの意見を聞きながら、課題を整理し、よりよい解決に向けた取り組みの検討を進めていきたい。



藤沢市役所に設置されているPM2.5測定器

の具体的な防止策について聞きたい。

市としての取り組みは、広報啓発活動が中心となっている。これまで、警しんまちづくりフェスタでの啓発活動、消費生活センターにおける振り込め詐欺防止を含む啓発講座、講師を派遣する出張講座などを実施している。また、市長、警察署長、防犯団や地域